

まちの話題

ISA City Topics

好天 賑わう「春の市」



3月11日・12日、伊佐の春の風物詩「春の市」が開催されました。両日ともに晴天で暖かい気候に恵まれ、多くの来場者で賑わいました。

会場の伊佐市中心商店街一帯は歩行者天国になり、植木や農具、雑貨、飲食物など約100軒の露店が立ち並びました。太鼓、吹奏楽などの演奏や隼人鈴かけ馬踊り、猿まわしが披露されると辺りには人だかりができていました。

2月26日から春の市最終日まで開催された「伊佐のひなまつり福かざり」にも市内外から多くの人々が訪れ、“福かざりマップ”を手に商店街を歩く姿が見られました。メイン会場や店頭飾られた華やかで可愛い福かざりに感心し、笑顔になっている姿が印象的でした。

受賞おめでとうございます



始良・伊佐地域振興局が地域づくり活動に取り組む団体等を表彰する「平成28年度始良・伊佐地域づくり活動表彰式」で伊佐市の2団体が表彰されました。

NPO法人トータルサポートネットワーク（写真左）は、子どもと保護者が一緒に楽しめる自然体験活動や「伊佐子育てマップ」による子育て支援の情報発信活動が、鹿児島建設業協会大口支部（写真右）は、災害発生時の道路パトロールや崩土除去等への対応がそれぞれ評価されました。

羽月北小学校 歴史に幕



3月20日、多くの人に惜しまれながら、市立羽月北小学校の閉校式が行われました。

昭和21年に羽月小学校山ノ神分校として開校し、昭和28年に羽月北小学校と校名変更、平成24年からは児童数の減少により休校となっていました。

閉校式には雨の降る中、多くの卒業生が集まり、涙ぐみながら最後の校歌を歌いました。校庭には閉校記念碑が建てられ、式典後に除幕式が行われました。羽月北校区コミュニティ協議会の橋口会長は「この地に学校を作ってくれてありがとうございます。学校創立から今までPTA活動や奉仕作業を頑張ってくれてありがとうございます。これからもよろしくお願いします。」と感謝を述べられました。

大口高生へ奨励金交付



2月28日、伊佐市役所で大学進学奨励金交付式が行われました。出席した5人には市長から通知が手渡され、大口高校の山之内校長から「健康に留意して、ふるさとを忘れず、感謝を忘れず頑張ってください」と激励されました。

代表で挨拶した山口真悠さんは「将来は伊佐に帰り、地元に貢献したい」と話しました。

この奨励金は大口高校緊急支援策として平成26年度から始まり、これまでに27人が受給しています。今年度は卒業生を含む12人が対象の大学に合格し、それぞれ30万円を受給しました。

第13回 本城おきな草春まつり



3月12日、本城校区コミュニティ協議会主催で今年も「本城おきな草春まつり」が開催されました。

好天に恵まれたこの日は、早朝からグラウンドゴルフ大会が行われたほか、おきな草の苗や特産品の販売、幼稚園バザーなどがありました。市内外から多数の応募があった「おきな草絵手紙コンテスト」の表彰式も行われ、多勢の人で賑わいました。

弓道で国際交流



3月13日、菱刈弓道場で鹿児島県弓道連盟伊佐支部と香港弓道協会が交流し、試合をしました。

香港から訪れたのは男女6人。それぞれ観光旅行で来日中で、この日に伊佐で合流するよう調整して来ました。以前、霧島市にホームステイしていたメンバーが、今回の旅行で「日本の小さな弓道場を見学したい」と申し出たことから今回の交流が実現しました。

6人の弓道歴は1年～5年と浅いですが、きっちりと作法にのっとり弓を引いていました。伊佐支部のメンバーから歩き方の指導なども受け、6人は感激した様子でした。

感謝!!そして未来へ



3月19日、大口ふれあいセンターで「伊佐市子ども発達支援センターたんぼぼ」の20周年記念式典が行われました。

小学生から社会人の卒園生5人によるリレートークや、卒園生も参加しての和太鼓演奏やダンスが披露され、子どもたちの可能性が無限であることを改めて感じる時間でした。20年の歩みを振り返る記念DVDの上映では、涙する人の姿も見られました。子どもと保護者の笑顔を支え、一緒に歩んできた「たんぼぼ」らしい、感動的な式典となりました。

遊休地活用で太陽光発電



2月1日、大口大田に「ハヤシソーラーシステム高柳発電所」が開所しました。発電所があるのは高柳池跡地で、平成25年度に市がこの遊休地活用について公募を行った結果、(株)林建設が選定されました。発電規模は14,600㎡の敷地に太陽光パネル4,300枚、総出力は1,200kwです。

高柳発電所では昼間に発電した電気をすべて蓄電でき、その電気を夜間にすべて売電します。メガソーラーの蓄電による夜間売電は国内でも珍しいそうです。蓄電は非常時の緊急電源として期待されています。

「川内川水系 かわまちづくり計画」始動



河川とその流域のまちを活性化するため良好なまち空間と水辺空間の形成を目指す「かわまちづくり支援制度」(国土交通省)において、全国で初めて、水系一貫で実施する「川内川水系かわまちづくり計画」が登録されました。川内川流域の5市町(薩摩川内市・さつま町・伊佐市・湧水町・えびの市)へそれぞれ登録証が伝達され、伊佐市には3月13日に川内川河川事務所長から市長へ「かわまちづくり支援制度登録証」が手渡されました。

この計画では、平成33年度の完成を目標に川内川流域の10か所を整備する予定で、伊佐市では曾木の滝周辺や湯之尾地区が対象となっています。

実体験から学ぶ「防災研修」



2月22日、伊佐市役所大口庁舎で市職員を対象とした「防災研修」が行われました。宮城県南三陸町から岩淵武久氏(総務課法令係長・前危機管理係長)を講師に迎え、東日本大震災における教訓や減災に向けた取組等について研修しました。

岩淵氏は、震災の体験から、まずは自分が「助かる」こと、助かって「助け、助け合う」ことの重要性を教えました。

伊佐市では震災直後から南三陸町に職員を派遣しており、昨年度は相互応援協定を締結しています。